

犬リンパ腫の治療補助としてのドキシサイクリンの利用 (USA)

Kelly R. Hume¹⁾· Mia L. Jacobson¹⁾· Lucy Teddy¹⁾ Cheryl E. Balkman¹⁾ Skylar R. Sylvester¹⁾

1) Cornell University (USA)

This information reports recent clinical research. The contents have not been published or presented at another conference. Ethics committee approval: IACUC protocol 2017-0089

Introduction

ドキシサイクリンは、リンパ腫の細胞増殖を阻害することが以前に報告されている。本研究の目的は、プレドニゾロンと組み合わせて投与されたドキシサイクリンが、大細胞型多中心性リンパ腫の犬に臨床的利益をもたらすかどうかを判断することである。

Methods

リンパ腫の犬に対するこの前向き臨床試験について、飼い主の同意を得た後、全頭に対して病期のステージ分類と免疫表現型検査を行った。プレドニゾロン + ドキシサイクリン (P+D)、プレドニゾロン + ベルディネキソール (Laverdia-CA1) (P+V)、プレドニゾロン (P 単独) のいずれかを投与するよう無作為に割り付け、継続的に投与した。身体検査と血液検査によって12週間モニターし、4、8、12週目に疾患の状態を評価した。また、その後の生存期間のデータ収集も継続的に行なった。

Results

P+D を受けた 10 頭の犬のうち 3 頭 (30%) は、12 週目に疾患の進行もなく生存していた。他のグループ (P+V : n=3、P 単独 : n=6) では、疾患の進行があり、12 週目における生存は見られなかった (0%)。P+D を受けた 10 頭の犬では、他のグループの 9 頭の犬と比較して全生存期間 (OST) の延長が認められた ($p=0.0040$ 、ロジランク検定; HR 0.18、95% CI 0.05~0.67)。P+D を受けた犬の OST 中央値は 116 日 (95% CI、57~231 日)であったのに対し、他のグループの犬では 59 日(95% CI、17~95 日)であった。病期ステージ分類と免疫表現型検査は追跡していない。全ての犬において、グレード 3・グレード 4 の血液毒性の有害事象 (AE) は認められなかった。P のみを投与された犬において、グレード 3・グレード 4 の代謝障害性 AE は見られなかった。P+D を受けた 5 頭の犬は、ALT (アラニントランスフェラーゼ) および ALP (アルカリホスファターゼ) のグレード 3・グレード 4 の上昇が認められた。P+V を投与した 2 頭の犬では、ALT および ALP のグレード 3 の上昇が認められた。

Conclusions

P+D を受けたリンパ腫の犬では生存率の向上が見られた。リンパ腫の管理におけるドキシサイクリンの役割について、今後さらなる研究が必要である。

Clinical significance

ドキシサイクリンとプレドニゾロンの併用は、化学療法が不可能な場合のリンパ腫の犬の管理に役立つ低コストの治療プロトコルとなる可能性がある。